

実務交流研修 (2018.6 ver.1)

-実施方法-

-背景-

-計画準備期-

-将来構想-

-受け入れる側の先生方へ-

国立理学療法士協議会関東信越部会

ご意見、ご質問はこちらへお願いします

jitsumukouryu@gmail.com

国立病院理学療法士協議会 関東信越部会 会員の皆様へ

会員の皆さんが自らの希望で研修先を
選んで研修できるシステムをスタートします！

国立病院機構のスケールメリットを活かした
この「実務交流研修」で、
スキルアップしませんか？

考えられる研修への希望

- 認定資格のために症例を診たい
呼吸療法認定士 糖尿病療養指導士など
- 異動希望を出す前に施設と雰囲気を見てみたい
- 同じ疾患を他病院ではどのように
診ているか知りたい
- 自施設に無い症例を経験してみたい
- エキスパートに聞きたい

—実施方法—

実務交流研修 目的

- 人材育成の一環として関東信越グループ病院それぞれ相互の特色を活かし、会員の技術・技能及び知識の向上とキャリア獲得への一助にすることを目的とする。
- 技術や知識のみならず、他病院や施設の業務を体験させ、さらには研修先職員との交流なども通して、中・長期的な自己の未来をイメージさせることで関東信越グループ全体を見渡せるグローバルな人材を育成することを目的とする。

研修の流れ

- 研修希望者は士長へ申し出る
- 協議会窓口ホームページ(予定)申し込む
- 研修先に協議会が日程等調整後、実施日を通知
- 研修希望者は1週間前に研修先の士長へ連絡する
- 研修希望者は年休・自費で出向く

応募フォーム

<https://goo.gl/forms/g0v5ozyHEaZKVoUd2>



スマホからの入力可能です。
一部のHOSPネットでは利用できない
施設もあるようです。

—背景—

過去の見学事例

- 呼吸リハの立ち上げを行いたい
相模原病院 → 茨城東(旧晴嵐荘病院)
- ハンセン病以外の診療を経験させたい
 - 全生園 → 村山医療センター
 - 相模原病院
 - 栗生楽泉園 → 横浜医療センター
 - 高崎総合医療センター
 - 国立国際医療研究センター

グループ内病院への見学

- 以前より可能ではあったが制度としては確立されていない
- 個人の希望ではなく所属施設の業務拡大や、士長の教育的な意向によるものが多かった
- グループ内の病院で研修が出来れば会員のスキルアップの一助となるのではないか
- 専門性の高い分野の実務を指導を受けながら体験させることで、職員それぞれが自己のキャリア像という未来を創造することが出来ないか

2016年9月研修のアンケートより

- 回答数 **56** 平均経験年数 **3.9年**
- NHO内の施設で研修をしたいですか?
参加したい 85.7%
- どのような研修をしたいですか?
 - 手技・・・PNF Bobath 川平法
 - 疾患・・・小児 中枢 重心 THA
ACL 神経難病 心臓
 - 施設・・・武蔵 甲府 東京 成育 村山 東埼玉

協議会での検討 (2016—)

- 協議会では従来の他施設見学を発展させ
「実務交流研修」としてシステムの構築を検討
- 「実務交流研修」を人材育成の一つとして検討する
人材育成ワーキンググループ(WG)が発足
- WGメンバー
朝日(甲府) 松本(信州上田) 吉田(水戸)
山本(東京) 藤田(村山)

—計画準備期—

2016士長会のグループワークにて

- 1日見学レベルであれば研修を受けさせることに大きな障害はないと感じている意見が多い。
単位より他施設がどうアプローチしているのか学べる機会になれば自施設にもメリットがあるとの記載もあった。
- デメリットでは人員不足やスケジュール調整が難しい、単位問題を挙げている回答が多い。
- 求められる研修のレベルによっては困難に感じている印象。

モデルケース アンケート

年休で見学のみの研修

2017 3～6月 3件にアンケートを実施

1. 異動に備えて重心について聞きたい
2. ACLのスペシャリストと技術共有したい
3. 筋ジス同士の交流と出張講義

1. 村山 → 箱根

人事異動の内示があり、重症心身障害児者に対する理学療法について学ぶ目的で研修に出た
業務終了後に講義を実施。患者さんの診療を直接は見学していない。病棟は見学できた。

アンケートより

重症心身障害児者に対するリハビリについて学ぶことができた。スキルアップに役立つと思います。

受け入れ側の好意と熱意があって初めて成り立つものなので「仕事として受け入れさせる」のではなく現場で直接受け入れるスタッフに十分なケアが必要

2. 相模原 → 甲府

ACL損傷等のスポーツ疾患のリハビリ: 当院では症例数は少ないが担当した場合に役立てるため、自己研鑽目的で参加

アンケートより

患者さんを5-6例見学しており、目的のポイントを学べる
ことができ、且つ自己のスキルアップに役立つ

説明するために情報を整理できる

他院の情報も得られ刺激になる

3. 東埼玉 → 武蔵

知識、技術を共有したいというニーズがそれぞれにあった。
「カエル呼吸」に関する出張研修を実施した。

アンケートより

専門施設ならではの異なる視点からの指摘や質疑、講義内容の
ブラッシュアップを図ることが出来た。他施設交流により各病院内
の考え方とは違う視点は重要

専門的な高い知識や技術を有したスタッフがまだそこまでに至って
いない施設への指導を行うことは非常に有益な交流と考えます。

アンケート まとめ

- 受け入れ側の好意と熱意があって初めて成り立つものなので「仕事として受け入れさせる」のではなく現場で直接受け入れるスタッフに十分なケアが必要
- 説明するために情報を整理できる
- 他院の情報も得られ刺激になる
- 専門的な高い知識や技術を共有でき、非常に有益な交流である。

WGでの検討

- 公務で行くには院長の決済が必要
 - 各職場長が事務・幹部に説明が不可欠
 - 手続きが煩雑になる
- 実際診療をする
 - 保健所の届け・保険の問題
- スタートを切ることが優先であると判断
 - 病院事務を通さず 1日年休 交通費支給無し
 - 第一段階として実績を蓄積する

開始までのスケジュール

平成30年6月1日より受付開始いたします。

それまではテスト運用のため
入力テストを行っててください。

職場には実務交流研修のポスターを
掲示してください。

—将来構想—

将来構想

平成30年の第一段階を経て、
複数日程の研修プログラムを順次作成して
発動できるようにしてはどうか？

将来的には、経験3-5年程度・主任試験
受験前職員を対象とした必須研修(1-2ヵ月程度
の期間で他施設実務を経験する)への発展も
視野に入れて検討していきたい。

構想（案）

受け入れる側の施設は研修できる

プログラム（複数日程）を作成する

例）

■ 脊損研修コース	5日	村山医療センター
■ ハンセン研修コース	3日	全生園
■ がん緩和研修コース	2日	東京病院
■ 急性期研修コース	3日	東京医療センター
■ 筋ジス研修コース	4日	東埼玉病院

－受け入れる側の先生方へ－

人材を育成すること

ご自分の部下・後輩同様にグループ内の人材を指導していただきたいと思います。

また、温かく迎え入れて熱く指導してくれる人材の育成をよろしくお願いします。

研修生とは

- 本人の希望で来てくれる
- 向上心を持っている
- 「学習できる」と期待している
- 未来の部下になる可能性
- 同じNHOでも緊張している

受け入れることの利点と準備

- 教えることで整理になる
 - 見られる意識・新しい風
 - より高い専門性の確認
 - 関信グループが身近に感じられる
-
- 説明できるスタッフの育成
 - 暖かいおもてなし
 - できたらお土産を...